

2021 年度

第 4 回学校関係者評価委員会報告書

実施日：2022 年 3 月 24 日（木）

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

2021年度 第4回 学校関係者評価委員会 議事録

開催日時 2022年3月24日

14:00~15:00

開催場所 北斗会看護専門学校 図書室

リモート併用会議

1. 学校長挨拶及び趣旨説明

- ・新型コロナウイルス感染はまだ終息は見えず、学生にとっては辛い時期となった。3月に卒業した43回生は、コロナのため入学式が行えず、2年間で全てコロナとなった学生生活であったが、無事卒業することができ、安堵している。状況によっては国家試験を受けられないこともあるが、本校の学生は全員国家試験を受けることができた。大変な状況を乗り越え、ここまでくることができ、幸せに思う。明日は国家試験の結果が出るが、期待している。本日も忌憚のないご意見を頂戴したい。

2. 委員及び参加者紹介

<学校教職員>

学校長、学校事務部長、副学校長、教務主任、顧問…計5名

<委員>

委員長 教育に関する分野の有識者、講師関係者として

神戸市ケアマネジャー連絡会 副代表

ハーモニーハウス名張 施設長 河井 眞知子 様

学校周辺の地域に精通する地域住民または地元企業関係者として

豊中市社会福祉協議会・校区福祉委員会の経験をもつ、

地域相談支援センター管理者 奥村 慶雄 様

関連業界等関係者として学校周辺の病院施設の管理者である

篤友会 坂本病院 …感染対策のためリモート参加

看護部長 齊藤 みゆき 様

…計3名

学校長 高木宏、副学校長 石川美佐子、教務主任 並川好美、

顧問 安部由美子 学校事務部長 井上英二

合計8

3. 2021年度 自己評価の概要説明

—自己評価の概要 資料参照—

【改善策】

1. 新型コロナウイルス感染の状況は次年度も同様の状況にあると考える。感染防止対策と学習を両立させられるよう学習環境を整え、また、看護専門職としての健康教育、感染防止教育が行えるよう取り組む必要がある。重点目標として「感染防止対策と学生への支援」をあげ取り組む。
2. コロナ禍では、学習時間の確保と充実が課題である。リモート授業では学習習慣が身につけていない学生にとっては学習の習得も難しい。しかし、こういった中でも、1年次から計画的に学習に取り組める工夫や学習指導を行い、日々の学習とともに、国家試験に向けて学習できる環境をつくる。
3. 2023年度から新カリキュラムによって学校運営が展開される。教員個々の教育観の育成、育てたい学生像に向けた取り組みを強化し、教育理念、教育目的、教育目標を具現化できるよう臨む必要がある。そのため「指導力の向上」を重点目標とし、「基礎学力の向上」「社会人基礎力の向上」「思いやりと感性を育む」ことを目標に計画する。
4. 「定員40名を満了した魅力ある学校づくり」の数値目標は達成したものの、准看護学校の閉校や2年課程の学生充足率の低下が進んでいる中、学生を確保することは難しい。学生確保のあり方もコロナ禍で制限を受け、変化してきている。学校運営としては重要となる「定員40名を満了した魅力ある学校づくり」を充実させる。
 - 1) 受験者倍率1.3倍を目指し、学校の魅力をより多くの人に伝える取り組みの継続
 - 2) SNSを利用した情報発信
 - 3) オープンキャンパスの充実
 - 4) 准看護師の看護師へのステップアップを促進できるよう、病院への広報活動を広げる
5. 学生は就職へのニーズは当然高い。学生が不利益とならないよう情報の発信と、いつでも相談をうけられるよう、就職率の向上に向けて支援体制を整える。
 - 1) 希望者就職100%
 - 2) 大阪府内の就職率80%
 - 3) キャリアガイダンスの充実

4. 2021年度重点目標の評価の概要説明

2021年度 重点目標

1. 感染防止対策と学生への支援
2. 学生に目を向けた一人一人の能力を引き出す指導体制
3. 状況判断能力を高め、コミュニケーション力を育てる指導
4. 国家試験合格率 100%

1. 感染防止対策と学生への支援

- ・全体としては対策を取りながら、学生対応はできていた。クラスターを出すことはなく、オンライン授業への切り替えや対面授業の開始、感染防止についての注意喚起などタイミングよく対応できた。現在のところコロナ感染の終息は難しいと思われる状況である。学習環境を整えるためにも、今後も引き続き正確な状況の判断と対応に努める必要がある。
- ・「健康履歴・行動履歴」は毎日記載し、行動・健康状態の把握に努めている。しかし、倫理的観点から行動規制や強制することはできない。子育て世代の学生にとっては家族に関する役割も担っていかなければいけない事情もあり、個人が認識することでは解決できないことを抱えている。正直に連絡・報告・相談はできていると思われるため、信頼関係をもって、健康と行動の把握に努め、何らかの対応が必要となった場合に備えることが重要である。感染の恐れがあった場合に、状況把握が遅れることがないよう感染防止に努める。
- ・次年度も引き続き重点目標にあげ、取り組む。

2. 学生に目を向けた一人一人の能力を引き出す指導体制

- ・学習指導については2年生の4月～6月では小グループによる学習指導を行う予定であったが、リモート授業となり、小グループ学習が行えなかった。
- ・「わくわくゼミナール」では学習意欲がある学生への対応が主となっていた。
- ・1年生の基礎学力向上に向けては夏休みから個別に行われた。
- ・2年という就学期間を考えると、基礎学力が不足している学生に対してはできる限り早い時期から学習への意欲と面白みを高め、学習できる環境を作る必要がある。
- ・学生の思いや考えを表現させる機会を作り、計画的な取り組みについては、リモートになったことや行事の中止などにより、先輩から学習の仕方を聞く機がも半減した。
- ・わずかな時間を工面し、リモートなども活用して、交流の場を作ったことは、学生の心

に残ったようであった。可能な範囲で交流を含め、学習の仕方、学生生活の過ごし方などを伝えられる機会を作ることも必要。

- ・次年度重点目標に教員の「指導力の向上」をあげ、学生の「基礎学力の向上」「社会人基礎力の向上」「思いやりと感性を育む」を目標に計画したい。

3. コミュニケーション力を育てる指導

- ・日々の学生とのかかわりの中で意識して指導を行うことができている。
- ・適切に連絡・報告・相談できる学生とできない学生がいるが、継続した指導が必要である。
- ・社会性や専門職業人としての行動については、一貫して、継続した指導が必要である。

4. 国家試験合格率 100%

- ・学力差が大きい中で、基礎学力の不足する学生に対しては個別指導を行った。入学後早い時期から意識付け、学習状況の把握、学習の仕方の指導が行えるよう体制を整える必要がある。
- ・実習が終了した12月にわくわくゼミナールの開催と模擬試験の結果を参考に、基礎学力不足の学生に対して小グループ学習を開始した。しかし、1月下旬から感染対策のために自宅学習となった。学習支援が十分に行き届かない状況となり、学生も教員も不安を抱えたまま国家試験を迎えることとなった。この間も電話対応等不安の軽減に努め、全員が受験できる体制を整えていった。
- ・コロナ禍において、全員が受験できることを目指し、37名全員が受験することができた。結果については待つ。

2022年度重点目標

1. 感染防止対策と学生への支援
2. 指導力の向上

5. 意見交換

(ご意見拝聴)

奥村：学生は登下校も和気あいあいとしている。学校の雰囲気も良い。

- ・アンケートの結果は好感が持てる。先生方の指導があつてのことと思う。
- ・学生は優しく接してくれたと感じた。学校の印象としては大切。
- ・国家試験の結果は学校評価として大切な点であるが、いつも全国平均を上回り、頑張っていると思う。
- ・それだけではなく、学校としての本来の姿を大切にした取り組みがされている。
- ・学習は個別におこなっていると、落ちこぼれなどを作ってしまう。リモートであっても励まし合い、一緒にやっていると見えるようにすることが大切。
- ・准看護学校が閉校となっており、定員を埋められない学校はどこでも多い。この学校は充実している。
- ・(学校が) 看護師になる役割を果たせて行けたらいいなと思う。
- ・介護の研修や夏祭りなど地域の中で行われていることへ協働して参加することもよいと思う。
- ・アンケートを見ると経済的支援も整っているようで安心した。

河井：先生方の熱い思いは長い歴史の中で変わらない。

- ・学校が良い、先生方がいい、という実体験がある口コミが大切に信用される。
- ・ホームページなども広がり、今年の受験生増加につながっていると思う。
- ・この学校の“きらりと光る学校”ということ、まず、知って欲しい。
- ・先生方の日々の努力がこの受験者の増加につながっていると思う。
- ・厳しい意見として、面接やアンケートには学生は正直なことはなかなか書かない、良いことしか書かないと思っているが、ここに書いていることは本物だと思う。2年間見せてもらったが、先生方はとても良く頑張っている。
- ・地域の中でのヘルパー研修は、ヘルパーの高齢化や現在ヘルパーになる人も減ってきていることから、地域の現状を見て、この地域でどんな参加ができるのかを検討すると良いと思う。
- ・准看護師は病院で何割くらいいるのだろうか。

石川：まだ、准看護師として働く人は見受けられる。病院で准看護師として働く中で看護師へステップアップさせたいと看護教育に熱心な病院もある。そう言った方々へのアプローチも考えている。

河井：地方ではまだ准看護師の方の就職も多い。こんなに准看護師がいるとは思わなかった。この学校の存続意義は十分にあると思う。

- ・まずは、学校を知ってもらうことが必要なところだと思う。

齋藤：参加させていただくことで、毎回原点に戻って考える機会とさせていただいている。

- ・学校の良さがアンケートに全て表れている。

- ・学生は入学して直ぐから温かさを感じている。
- ・まずは、受験生に選んでもらえることが大切。
- ・知ってもらうために、間口を広げることが大切。
- ・オープンキャンパスの希望者や入学希望者が増加している。
- ・病院への募集要項、はがきを送る、卒業生のいる病院へのアプローチなどもよい。
- ・療養型の施設などでは准看護師の勤務も多い。間口を広げていくことが大切。
- ・先生方の支援は良いと思うが、ハード面に対しては、アンケートを見ると、整備も必要。(実習で使用する) 電動ベッドがないこと、洋式トイレの不足などの整備は行った方がよいと思う。

河井：同じく、トイレやベッドの整備の必要性は以前から思っていた。

石川：学生のアンケートからはトイレ、ベッド、机、椅子などの充実に対しての意見があり、以前から話に聞いている。環境の整備については法人の協力を得られるとありがたいと思う。

井上：今年卒業した学生は、コロナの中で卒業した学生だった。同じ教員が教育していく環境であり、2年間学習していく。

- ・実習が十分にいけない中で、学内実習も多くなったが、先生方は凄く頑張った。実習はとてもプラスになる体験だが、いろいろ見直す機会にもしていったのではないかなと思う。

安部：今度の入学生は45回生となり、本校は45年の歴史がある。ハード面では不足があるが、教員の質を上げて、学校の良さが高まり、広がっていきけるようにしたい。委員会はいつも身の引き締まる思いで参加している。

並川：若い世代へ移行していく時期でもある。ベテランの先生方がおられるので、しっかりと引き継いでいきたい。

6. 学校長による総括

教員の人材育成を含め、様々な課題について、委員の皆様から頂いたご意見や提言を参考にして、改善に向け、努力していきます。コロナ禍で大変だが、学生にとってもピンチをチャンスと捉えるように指導している。感染症に対しても実地に学べる機会と考えて、いい意味で、学習に深みを持たせていって欲しい。

2年間、本校の教育に関し、ご尽力頂きありがとうございました。

7. その他

次年度からは新しい委員の方に参加いただくこととなりました。早いもので、今回で2年の任期が終了いたしました。この委員会は初めての試みで、不足な面が多々あったと思いますが、今後とも引き続き、忌憚のないご意見を頂き、学生にとって安心して学べるように大切に育てていきたいと思っております。2年間に渡り、ありがとうございました。